

## 【巻頭言】

## 令和3年度定期総会開催方法の変更について

副会長 錦 成郎 (54 回生)

学友会会員の皆様には、お元気でお過ごしのことと存じます。

「初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香」これは元号の「令和」の出典元となった万葉集の第5巻に収録された「梅花の歌(梅花歌三十二首并せて序)」の原文です。この「令和」に込められた思いは「春の訪れを告げる梅の花のように、明日への希望と共に、一人ひとりが大きく花を咲かせられる日本でありたいとの願いを込めた」という首相談話から読み取ることができます。早いもので令和も3年目の春を迎えました。

思い起こせば、国内における最初の新型コロナウイルス感染者は、令和2年(2020年)1月15日に確定診断されました。ところが、この原稿を執筆している令和3年3月2日現在では、感染者が433,504例、死亡者は7,933名に及んでいます。このため非常事態宣言の発令という社会生活の制限するような事態を招き、多種多様な決まりごとの励行や、行動制限を伴う対策が長期に渡っています。いつ収束が宣言されるのかを心待ちにする気持ちと、これまでの生活に戻れるのだろうかという不安が交錯した感情を持って余す日々を送られている諸兄も多くいらっしゃるかと推察します。皆が希望を持って開花するという思いを以って名付けられた「令和」が始まって間もなくの未曾有の大災害といえるでしょう。

さて、今年度の学友会の事業ですが、感染防止を重点に置いて開催方法を模索した結果やむなく中止となったものや、対面を避けてリモート開催に切り替えて開催するなど、状況に応じて臨機応変に対応していただいていることにつき感謝するとともに誇りに思います。

先の見通せない時期が続くなか、既報の通り広島支部では総会の開催に向けて慎重かつ精力的にご準備を進めていただいていたのですが、令和3年3月に開かれた学友会理事会における審議の結果、広島支部による総会は2年後(2023年)に順延することに決定いたしました。ここに会員の皆様に謹んでご報告いたします。理由として、令和3年5月時点での催事の開催制限が不明であること。また、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長初の事務連絡にある「飲食を伴う催事の開催は慎重に判断する」という点に重きを置いて慎重に判断した結果です。さらに、2年先に順延することで、広島支部の皆さんの準備の労に叶った総会を開催できる可能性が高いと判断したことも申し添えます。

会員の皆様へのご報告が遅れましたことにつきましては、紙面を拝借してお詫びいたしますとともに、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ致します。

令和3年度の定期総会は新たな形式を導入して京都医療科学大学を中心にハイブリッド形式で開催します。

現地には表彰される先生方と予めお願いした関係者のみご参集いただき、それ以外の会員の先生方にはリモートで参加していただけるように準備したいと考えています。リモートの接続方法や総会次第などの詳細は、学友だよりをご覧ください。

新たな感染症の禍が国内で猛威を振るい始めてから約1年が経過して、また春が巡ってきました。我校でも例年同様に卒業生を送り出して新入生を迎えています。今は3密を避け・手洗い・消毒・マスク着用といった感染対策が付いて回ります。ポストコロナ時代に関する意見は多くありますが、おそらくこれまでとは少し違う仕組みや習慣が加わったものになるのでしょうか。

この感染症には、負けないで冷静に対応することが大切ではないでしょうか。最後になりましたが、学友会の皆様の益々のご健勝を祈念して筆を置きます。

以上